

千葉大学

【N021 千葉大学】

	千葉大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:630 第3年次:110） 大学院工学研究科（M:336 D:42） 大学院融合科学研究科（M:125 D:21） 環境リモートセンシング研究センター
沿革	大正10（1921）年 東京高等工芸学校創立 昭和19（1944）年 東京工業専門学校に改称 昭和24（1949）年 新制千葉大学工芸学部設置 昭和26（1951）年 工芸学部を工学部に改称 昭和40（1965）年 大学院工学研究科設置 昭和61（1986）年 映像隔測研究センターを設置 平成7（1995）年 映像隔測研究センターを廃止・転換、環境リモートセンシング研究センター設置 平成8（1996）年 大学院工学研究科を含む3研究科を自然科学研究科に改組 平成19（2007）年 大学院自然科学研究科を工学研究科及び新設の融合科学研究科を含む4研究科に改組 平成22（2010）年 環境リモートセンシング研究センターが共同利用・共同研究拠点に認定
設置目的等	<p>千葉大学工学部・工学研究科・融合科学研究科の母体である東京高等工芸学校は、貿易の振興、生活文化向上の上から、図案及び応用を専門とする工芸の高等教育機関として大正10年に設置された。</p> <p>東京高等工芸学校は、昭和19年に東京工業専門学校に改称された後、新制国立大学の発足時に、千葉大学工芸学部として承継された。</p> <p>昭和26年に、一般の技術者養成及び工業意匠・木材工芸・印刷・写真映画の特殊な高級技術者養成による新しい文化の発展への寄与を目的に、工学部が設置された。</p> <p>昭和40年に、京葉工業地帯の発展を最重要課題としていた千葉県知事を会長とする千葉大学工学部大学院設置促進期成同盟の設置運動を背景に、工学研究科修士課程が設置された。</p> <p>平成7年に、リモートセンシングによる「地球環境学」の発展に寄与することを目的に、全国共同利用機関として環境リモートセンシ</p>

	<p>グ研究センターが設置された。</p> <p>平成8年、専門性の高度化と専門間の相互交流という観点を導入し、現代の急激に変動・発展する技術に適応するため、理学、工学及び園芸学の3研究科(修士課程)を区分制博士課程の自然科学研究科に改組した。</p> <p>平成19年に、専門学術領域の高度化の著しい進展を背景に自然科学研究科を改組し、理学、工学、園芸学及び融合科学研究科の4研究科に再編した。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>千葉大学においては、日本のモダン・デザイン史において体系的なデザイナー養成課程をもつ初めての学校として創設された東京高等工芸学校を源流とする芸術系の伝統を生かす一方、進取の気鋭に富む教育研究や国際化を目指して、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「グローバルに活躍する高度エンジニア、研究者の養成」の理念のもと、分野融合領域や先端複合領域も含めた工学分野における学際的かつ広範な知識を身に付けた高度職業人を育成するとともに、高度な研究能力及び国際性を有する先導的・指導的研究者を育成する役割を果たす。 ○ 先進的マルチキャリア博士人材養成プログラムなどの特色ある教育改革を進めてきた実績を生かし、国際的水準を踏まえた教育改革を進め、グローバルに活躍できる工学系人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。 ○ 建築学、材料化学分野を始め、工学分野の多くの分野における高い研究実績を生かし、先端的な研究を総合的に推進する。 ○ 環境リモートセンシング研究分野における共同利用・共同研究拠点として、グローバルな環境情報を収集するとともに、リモートセンシング及び関連技術の研究開発に関するアジアにおける国際拠点として、先端的な研究を推進する。 ○ 国内5社の自動車メーカーが参画するコンソーシアムにより世界をリードする自動車産業の更なる発展に資する内燃機関などの研究開発を産学官共同研究体制で行うことによって、世界レベルの研究を推進するとともに、我が国の工学の発展に寄与し得る先端的知識を持つ人材の育成を行う。

- | | |
|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <ul style="list-style-type: none">○ 教員一人当たりの特許取得数の高い実績を生かし、今後とも我が国の産業を支える実践的な研究等の取組を一層推進する。○ 学部3年次編入ならびに大学院博士前期課程に社会人枠を設けるとともに、社会人の受け入れを促進するため、産学官共同研究を中心に社会人に対して先端的な高度専門技術や知識を修得させる。 |
|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|